

タイムトライアル

1年 金井 均

10月23日、その日は、恐怖のタイムトライアルの日であった。とにかく、その日が近づくにつれ、僕の心は恐怖心と猜疑心とでいっぱいになってきた。「なんで富士山を1500mも登らなきゃいかんのや、疲れるだけやないの」と考えるようになっていたのである。前日、川口湖Y.H.で、出走順位が決定された。僕の順位はなななんと、5番目、そしておまけに、沢木さんの次で三浦さんの前の前ではないか。出走時間差は、30秒おき、これでは、後ろからどんどんぬかされるだけやないの。これは、もう恥辱のタイムトライアルになることは必定であり、僕は、どうにでもなれと聞きなあった。とにかく、完走を目標に走ろうと心を決めた。だが、三浦さんは、「金井に勝つ」などと言って、僕の心を惑わせる。よくなりよ～。

そして、ついにその日が来た。朝、緊張していたのだろうか、トイレへ3回も行ってしまった。そして、不安に入り混じりながら、9時32分30秒、出走した。初めは、たいした上り坂でもなくちんたらペダルをこいでいった。少し時間がたったところで、僕の次に出走した16番のやつが、まるで特急列車のごとく、僕をおいこしていった。そして、次にとうとう三浦さんにもおいこされた。それから、数人にまたおいこされた。もう、悪夢である。僕は、自分にマイペース、マイペースと言いつつ聞かせながら適当に登

っていった。ところが、4合目の手前の所で、必死にこいでいる前の人を、なんの気なしにぬいたら、その人は、なんなんと三浦さんではないか。三浦さんか、どうしてここに。僕は、あっけに取られたが、その次、「やった」と内心思った。それから、マイペースでどんどん登りつめた。だが、4合目を過ぎたところでついに力もつき始め、フラフラきたが、地図とにらめっこして、あと少しだと自分に言い聞かせて、必死で重い足でこいだ。なんとか登って行くと、向こうの方に、休憩所らしき八角形の建物が見えた。「あれだ、もうすぐ5合目だ」。時計を見ると、11時50分前。よし、2時10分代でなんとか登ってみせるぞと思い、僕は最後の力をふりしぼって必死にこいだ。そして、やっとゴールイン。「やったぞ、とうとう走りぬいたぞ。」時間は、2時間19分44秒、なんとか救われた。

そして、全員が完走したあと、みんなでおカクロープになって、下山して行った。そして、ゲート横で、表彰式。1位は、あの16番で、1時間40分25秒だそう。僕は、23位だったが、23日にちなんで、なんなんとフロントバックを賞品にもらった。恐怖の10月23日ではなく、喜びの10月23日となった。

それから、解散。我々は、富士山をあとに、川口湖駅へと向って行った。タイムトライアルは、非常に疲れたけれど、「やった」という気がした。本当によかったと思う。あの5合目で、吉田さんの作ってくれたおしるこが、とてもおいしかったです。